

登録コード	L1340800	開講年度	2026				
担当教員	木村 宏人			副担当			
授業科目	文化情報論発展演習						
英文授業名	Cultural Informatics: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文213 演習室	遠隔授業科目		読替科目			
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会学に関する専門知識を身に付け、活用することができる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			発表や議論を通じて知識や思考を他者と共有することができる。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会学分野の実証的な論文を講読する。加えて、3年生は自身の研究を実施する。発表とディスカッションを通してより理解を深め、実践的な問題への知見の応用も図る。						
授業計画	1 ガイダンス 2 研究発表（3年生） 3 研究発表（3年生） 4 論文発表（2年生） 5 論文発表（2年生） 6 論文発表（2年生） 7 研究発表（3年生） 8 研究発表（3年生） 9 論文発表（2年生） 10 論文発表（2年生） 11 論文発表（2年生） 12 論文発表（2年生） 13 研究発表（3年生） 14 研究発表（3年生） 15 まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	授業中の取り組み（50％）、課題：毎回の小コメントと発表担当のレジュメ作成、3年生のプレ卒論（50％）						
成績評価の基準	卓越している（90％以上）：社会的な専門知識をもとに、自身の研究を主体的に進めることができる。 かなり上にある（80％以上90％未満）：社会的な専門知識を活用し、社会や文化の事象に対して学術的な知見を用いたアプローチができる。 やや上にある（70％以上80％未満）：社会的な研究論文を深く理解し、社会学の専門知識を身に付けることができる。 合格水準にある（60％以上70％未満）：社会的な研究論文を理解し、他者と共有することができる。						
事前事後学習の内容	論文の探索と熟読、レジュメ作成、授業後の知識の整理、自身の研究の実行（3年生）						
履修上の注意	受講生の人数や関心によって取り上げる順番や内容が変更することがある。						
質問、相談への対応	授業前後にお願いします。時間を要するものは別途対応しますので、事前にメールで連絡してください（メールアドレスは初回授業時に示します）。						
教科書	なし						
参考書	適宜指示する。						